

昨年から日本人女性スタッフが現地で活動を始めました。

確かに砂漠化問題は緊急に対処しなければならない地球環境問題の一つですが、短期間にお金と物を投入する緊急援助では片づかない側面があります。今までの援助で欠けていたもの、「時間」を援助しなければと考えています。すなわち、一時のブームで砂漠化という環境問題が語られることなく、多方面にわたる継続的な砂漠化防止を考えていかなければと考えています。

新刊紹介

◎世界の森林資源（アレキサンダー・メイサー著，熊崎 実訳：築地書館，324 ページ，7210 円。Alexander S. MATHER：Global Forest Resources, Belhaven Press, London 1990）最初本書を手にした時は、レイダー・ペルソンの世界の森林資源と同じように、世界の国別に樹種，あるいは森林型ごとの蓄積や成長量が掲載されているもっとも新しい本かと思った。しかしそのようなタイプの本でなく，人類が森林とどのようにかかわってきたかを 847 篇におよぶ膨大な資料を駆使して解き明かしている。最初に資源の基盤として世界の資源の分布と広がりを歴史的にまた動態的に把握し，次にその管理と利用をめぐる，人口，所有，経営，法的規制のあり方が森林資源そのもの，あるいは木材生産，貿易にどのように影響を与えてきたかを豊富な資料で分析している（第 2～6 章）。これらの資源利用が森林そのものの衰退や地球規模での環境へおよぼす影響も要領よくまとめてある（第 7 章）。さらにとくに熱帯林の展望と森林政策のあり方について述べてある（第 8, 9 章）。本書の特徴のひとつに，以上のプロセスを著者独自の仮説で（熊崎氏流にいうと，「ゆるい」論理で）説明しようとしていることがある。このような問題意識をもって読むと本書の真価がわかるかも知れない。時間のない人は「訳者あとがき」から読んで，このゆるい論理を大略つかんで通読されるとよい。文章はよくこなれていて読みやすい。（西川匡英）